

進路指導室から 第270号

はじめに

いよいよ学校が再開します。新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念されていますが、一人の感染者を出さないためにも、各自が学校という共同体で生活する一員として責任をもった行動する必要があります。

さて、新年度の始まりとともに、本校の進路指導部のメンバーの入れ替わりがありました。そのうち、若手の3人の先生方は他校への異動となり、進路指導部を離れることになりました。3人の先生方とは試行錯誤しながら頑張ってきただけに寂しく思います。3人の先生方は将来のある魅力的な方ばかりです。新しい職場でのご活躍を切に願っています。一方、新たに5名の先生方が加わりました。新たなメンバーとともに、今年度も本校進路指導のより一層の充実に向けて、取組を進めていきたいと考えています。

「1年生スタディーサポート」について

3月24日（火）の合格者登校日の際に、本校入学予定者とその保護者の皆様方に対して、「1年生スタディーサポート」の実施を4月18日（土）に延期することをお伝えしました。しかし、新型コロナウイルス感染症の終息が不明な状況を受けて、「1年生スタディーサポート」の実施を変更したいと考えています。変更にとともなう具体的な内容については4月10日（金）のオリエンテーション集会の際に説明する予定です。（「持ち帰り受験」として4月13日（月）に提出してもらいます）ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

「2020年度 国公立大志願状況」について(河合塾提供資料から)

河合塾から2020年度入試に関する情報を提供していただきました。主な概要について紹介します。

□ 国公立大志願状況

2月5日（水）に締め切られた国公立大一般選抜の総志願者数は439,565人と前年から約3万人減少しました。募集人員に対する志願倍率は前年の4.7倍から0.3ポイントダウンの4.4倍となりました。

国公立大入試の中心となる前期日程入試の志願者数は243,052人（前年比94%）と大きく減少しました。今春は18歳人口の減少に加え、既卒生も減少しており、大学志願者数は減少したものと推測されますが、国公立大入試もこの影響を受けた形となりました。また、大学入試センター試験の平均点ダウンも志願者減の要因となりました。思うように得点できず国公立大への出願に消極的になった受験生も少なくなかったと思われます。

全体の志願者が減少するなか、前年入試で志願倍率（志願者/募集人員）が2.0倍以下の低倍率入試となっていた募集区分では、今年の志願者数が増加した大学が目立ちました。今春入試では難関大を敬遠する動きはみられなかったものの、前年低倍率の大学など、合格の可能性が高そうな大学を探して出願した受験生が多かった様子が伺えました。

後期日程入試は前年比92%と前期日程入試以上の減少幅となりました。2020年度も後期日程入試廃止・縮小の動きが続いていることに加え、ボーダーラインが高い後期日程は前期日程入試以上に申し出にくかったものと考えられます。また、中期日程入試は前年比99%と他の日程に比べ減少は小幅でした。近年中期日程入試を新規実施する大学が増えていることが原因です。

〔国公立大志願状況〕

	日程	募集人員		志願者数				志願倍率	
		2019年度	2020年度	2019年度	2020年度	前年差	前年比	2019年度	2020年度
国立大学	前期	64,031	63,828	194,525	182,772	-11,753	94%	3.0	2.8
	後期	14,335	14,168	135,628	124,420	-11,208	92%	9.5	8.8
	計	78,366	77,996	330,153	307,192	-22,961	93%	4.2	3.9
公立大学	前期	16,102	16,223	64,010	60,280	-3,730	94%	4.0	3.7
	後期	3,648	3,572	43,986	40,667	-3,319	92%	12.1	11.4
	中期	2,310	2,355	31,687	31,426	-261	99%	13.7	13.3
	計	22,060	22,150	139,683	132,373	-7,310	95%	6.3	6.0
国公立大計	前期	80,133	80,051	258,535	243,052	-15,483	94%	3.2	3.0
	後期	17,983	17,740	179,614	165,087	-14,527	92%	10.0	9.3
	中期	2,310	2,355	31,687	31,426	-261	99%	13.7	13.3
	計	100,426	100,146	469,836	439,565	-30,271	94%	4.7	4.4

□ 学部系統別志願状況

国公立大全体の前年比を基準に各系統の前年比と確認すると、国公立大全体で志願者が減少していることもあり、「総合・環境・情報・人間」学系をのぞき、いずれの系統も志願者が減少しています。とくに社会科学系、医療系などで減少率が高くなりました。一方、理系では理・工学系では減少率は小幅、農学系も国公立大全体と同率となっています。

〔国公立大（前期日程）学部系統別志願状況〕

系 統	募 集 人 員		志 願 者 数				志 願 倍 率	
	2019年度	2020年度	2019年度	2020年度	前年差	前年比	2019年度	2020年度
文・人文	7,025	7,038	23,387	21,946	-1,441	94%	3.3	3.1
社会・国際	4,021	3,969	14,739	12,912	-1,827	88%	3.7	3.3
法・政治	4,163	4,158	13,995	12,796	-1,199	91%	3.4	3.1
経済・経営・商	8,146	8,119	28,438	25,702	-2,736	90%	3.5	3.2
教育-教員養成課程	7,281	7,172	19,056	17,606	-1,450	92%	2.6	2.5
教育 総合科学課程	828	838	2,486	2,122	-364	85%	3.0	2.5
理	4,967	4,907	14,604	14,036	-568	96%	2.8	2.9
工	22,799	22,864	69,016	67,082	-1,934	97%	3.0	2.9
農	5,574	5,651	16,455	15,469	-986	94%	3.0	2.7
医・歯・薬・保健	10,572	10,529	37,851	34,754	-3,097	92%	3.6	3.3
医	3,635	3,581	16,390	14,735	-1,655	90%	4.5	4.1
歯	477	450	1,824	1,657	-167	91%	4.1	3.7
薬	756	752	2,859	2,620	-239	92%	3.8	3.5
看護	3,930	3,931	11,256	10,321	-935	92%	2.9	2.6
医療技術・他	1,804	1,815	5,522	5,421	-101	98%	3.1	3.0
生活科学	789	788	2,612	2,424	-188	93%	3.3	3.1
芸術・スポーツ科学	1,580	1,582	7,502	7,319	-183	98%	4.7	4.6
総合・環境・情報・人間	2,395	2,493	8,399	8,805	406	105%	3.5	3.5

□ 国立難関10大学の志願状況

難関10大学全体では、前期日程は55,211人（前年比95%）と減少しました。国公立大全体に比べ減少率はやや低く、難関大を敬遠する動きは見られませんでした。10大学のうち7大学の志願者数が過去10年で最小となっており、競争の緩和が明確になっています。大学別に見ると、大阪大で前年比99%、東京大、京都大で同98%と前年並みから微減となったほかは、いずれの大学も志願者前年比は大きくダウンしました。

〔国立難関10大学の志願状況〕

大学名	前 期 日 程				後 期 日 程			
	2019年度	2020年度	前年差	前年比	2019年度	2020年度	前年差	前年比
北海道	5,843	5,474	-369	94%	4,498	4,278	-220	95%
東 北	4,813	4,384	-429	91%	1,439	1,354	-85	94%
東 京	9,483	9,259	-224	98%	-	-	-	-
東京工業	4,222	3,790	-432	90%	497	512	15	103%
一 橋	2,687	2,490	-197	93%	1,123	1,075	-48	96%
名古屋	4,736	4,422	-314	93%	67	55	-12	82%
京 都	7,511	7,347	-164	98%	514	352	-162	68%
大 阪	7,536	7,462	-74	99%	-	-	-	-
神 戸	5,933	5,569	-364	94%	4,026	3,746	-280	93%
九 州	5,239	5,014	-225	96%	2,309	2,227	-82	96%
難関10計	58,003	55,211	-2,792	95%	14,473	13,599	-874	94%
その他大計	200,532	187,841	-12,691	94%	165,141	151,488	-13,653	92%

終わりに

私が参与を務めている競技かるた部は、中国地区代表として青森県での「第15回全国高校生かるたグランプリ」に出場する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて大会は中止となりました。しかし、最後の最後まで大会の実施に向けて検討、そして準備を進めていただいた大会関係者には感謝の思いで一杯です。メールでのやり取りを通して感じたことですが、一番、残念な思いをもっているのは、この大会の出場を楽しみにしていた高校生の思いを叶えられなかった大会関係者だと思います。一日でも早く、こうした状況が改善されることを願っています。
 (文責：進路指導部 池本 邦彦)